

分担研究報告書

産業保健活動の生産性への貢献を意識したプランニングのための
ガイドの開発

| | | |
|-------|----|----|
| 研究分担者 | 永田 | 昌子 |
| 研究分担者 | 梶木 | 繁之 |
| 研究分担者 | 永田 | 智久 |
| 研究分担者 | 柴田 | 喜幸 |
| 研究代表者 | 森 | 晃爾 |

厚生労働科学研究費補助金労働安全衛生総合研究事業
(労働者の健康状態及び産業保健活動が労働生産性に及ぼす影響に関する研究)
総合研究報告書(分担研究報告書)

産業保健活動の生産性への貢献を意識したプランニングのための ガイドの開発

研究分担者 永田 昌子 産業医科大学産業医実務研修センター 助教
研究分担者 柴田 喜幸 産業医科大学産業医実務研修センター 准教授
研究分担者 梶木 繁之 産業医科大学産業生態科学研究所産業保健経営学講師
研究分担者 永田 智久 産業医科大学産業生態科学研究所産業保健経営学助教
研究代表者 森 晃爾 産業医科大学産業生態科学研究所産業保健経営学教授

研究要旨: 本研究の成果物として、「生産性への貢献を意識した産業保健活動のプランニングガイド」を作成した。

ガイドの作成にあたっては、盛り込むべき要素は、2 か年間の研究で得られた知見をもとに、研究分担者で協議し、抽出した。

介入研究を行うために必要な要素として、経営層(意思決定者)ニーズの把握、先行研究の調査、介入プログラムの効果を高める工夫、専門家の関与と協力、企業側担当者との連携、対照群への配慮、予算の確保の項目が挙げられた。

生産性への貢献を意識した産業保健活動のプランニングガイドの作成にあたり、ガイドの使用者を産業保健スタッフ(産業医、産業看護職)とした。また、産業保健スタッフが、生産性への貢献の観点で、産業保健活動を見直したうえで、生産性の貢献の評価を盛り込んだ産業保健プログラムの企画・実践・評価をし、産業保健活動全体の見直しにつなげるプロセスを記述した。

研究協力者

楠本 朗 産業医科大学大学院産業衛生学専攻

A. 研究の背景と目的

1. 目的

本研究の目的は、2 年間の研究全体の成果物として、生産性への貢献を意識した産業保健活動のプランニングガイドを作成することである。

ド案の目次を作成した。プランニングのプロセスには、研究班で介入研究の担当者が、介入研究で得られた知見をもとに記述した。また、ガイド案を叩き台としてガイドの構成や内容について研究班で議論を重ね、完成させた。

B. 方法

1. 作成方法

2 か年の研究成果物をもとに、ガイドに盛り込むべき内容を検討し抽出し、ガイ

C. 結果及び考察

ガイドの使用対象者は、産業医及び産業看護職とした。ガイドに盛り込む内容として、本研究が求められる背景や生産

性の考え方について触れた。その後実際に生産性を意識した産業保健活動を企画するプロセスとして、現状の産業保健活動の見直し、ニーズの抽出、優先順位付け、介入プログラムの検討、評価方法の検討、必要な資源の確保、介入プログラムの評価改善、産業保健活動全体へのフィードバックなどの要素を盛り込み作成した。

介入研究で得られた事例は、それぞれのプロセスごとに記述した。また、読みやすい資料としてシナリオを作成した。

最終的に、9章の構成となり、下記のような構成となった。

1. はじめに
2. 労働者の健康状態が生産性に与える影響
3. 現状の産業保健活動の構成と費用の可視化
4. ニーズ把握
 - (1) 3つの視点でのニーズ把握
 - 経営層の視点
 - 従業員の視点
 - 産業保健スタッフの視点
 - (2) 解決すべき課題と介入手段の検討
 - 解決すべき課題の選択
 - 優先順位づけ
5. 既存のエビデンスの収集
6. 介入プログラム
 - (1) 目的・目標の明確化とプロセスの抽出
 - (2) 介入プログラムの検討
 - (3) 研究デザインの検討

(4) 経営資源の獲得

企業、事業内の了承を得る
必要な人材、物資、情報を基
に予算を獲得する
予算を確保する

(5) 外部資源との連携

(6) 評価指標の介入計画への内包

追加項目（企画書の中身・意思決定者への報告書）
経営層・社員へ報告する

7. パイロット版実践

(1) パイロット研究の研究デザインと実施

(2) パイロット研究の結果の報告と公表

8. 実践（全社への水平展開）

(1) 全体プログラムの実践

(2) 全社への水平展開の結果の報告と公表

9. 産業保健活動へのフィードバック

D. 結論

1. 研究の成果物として、「生産性への貢献を意識した産業保健活動のプランニングガイド」を作成した。

2. 現行の産業保健活動を見直し、生産性への貢献を意識し産業保健プランニングをする際に必要なプロセスを抽出した。

3. 今後、産業保健スタッフの普及が望まれる。

E. 参考文献

なし